

『5番レーン』を読んで

金田小学校 六年 石井 陽歩

ぼくは5番レーンという本を読みました。この本を選んだのは、自分も水泳やバスケットボールを習っていて、スポーツに興味をもっていたからです。

この本は、カン・ナルが主人公の物語です。カン・ナルは水泳部のエースでしたが他の学校のライバルに大会で負けてしまいます。カン・ナルはとても負けずらいで、負けたことがくやしくて、チームメイトやコーチに、ライバルの水着のひかり方があやしいといういいわけをして、自分の負けをみとめませんでした。ある日、カン・ナルは女子更衣室でライバルの水着を見ようとしましたが、だれかが来たと思い、間違えて自分のカバンに入れてしまいました。カン・ナルはとてもこうかいし、手紙といっしょに水着を返そうとしましたがライバルからすごく怒られて、もっとこうかいしてしまいました。小学校最後の大会で、カン・ナルは決勝まで進みましたが、ライバルの水着をぬすんだことをこうかいして、きけんしようとしました。でもライバルに「ナルと一緒に決勝で泳がないと勝つてなくなつとくいかない」と言われ、決勝で泳ぐことにしました。けつきよく、しんけん勝負で

負けたカン・ナルは、すなおに負けをみとめました。それから、カン・ナルは勝つためにいっしょうけん命練習して、もっと努力するようになりました。

ぼくがこの本を読んでいちばん心に残ったところは、カン・ナルが大会の50m自由形決勝でライバルに負けてしまいました。水着や人のせいにするのではなく、ライバルが強かったことを認め、自分も練習して強くなるうとするところです。なぜなら、ぼくもカン・ナルと同じように試合で負けてしまったときに、くやしくて誰かや何かのせいにしてしまいたい気持ちになったからです。この本を読んで自分が負けたことを人や物のせいにすることは違うと感じました。勝負に勝つためには、まずは自分が一生けん命努力して、水泳やバスケットボールがうまくなるのが大事なんだと学びました。

また、カン・ナルの周りには、いつでも水泳を辞めていいと言ってくれる母親や、応援してくれる姉や、負けた時にはげましてくる友達や、いつもナルの味方だよと言ってくれるテヤンなどたくさん仲間がいるんだなと思いました。ぼくも母からよく「いややったらいつでも辞めていいよ。」と言われることがありました。母はいつもなぜそのよう

なことを言うのだろうと思う時もありましたが、この本を読んで自分が何をがんばりたいのかを考えて行動することが大切であると学びました。ぼくは今、水泳の試験で目標とするタイムを合格するまでは水泳をやりたいという思いがあります。これからも、くやしいと思うときこそ、努力していこうと思います。

願いつて本当にかなうの？

庭窪小学校 五年 竹下 旺毅

「この本はどう？」

と、読書が大の苦手なぼくにお母さんがすすめてきたのが「願いがかなうふしぎな日記」という本でした。最初にこの本を見たとき、ぼくは心の中で「そんな日記が本当にあるの？」と思い、読んでみることにしました。

この話は、主人公の光平が亡くなったおばあちゃんから望みを書くとかなうという日記帳をもらって、それに願いを書くとかなうにかなうというお話です。光平の願いが一つ二つとかなうって言って、「次はどんな願いを書くんだろう？その願いはかなうのかなあ？」とわくわくしながら読んでいきました。

ぼくが心に残ったところは、一つ目の願い事がかなう場面です。「死んじゃったおばあちゃんに会いたい」と書いたら本当に会えたところでした。会えたといってもそれはゆめでした。でも光平はともうれしかったと思います。ぼくは光平がともうらやましくなりました。なぜなら、ぼくにも二年前に亡くなったおばあちゃんがいるので、ゆめの中でも会いたいと思ったからです。

次に水泳が苦手な光平が日記に「泳げるようになりたい！」と書きたい気持ちと「どう

せだめだろう。」とあきらめる気持ちでなやむ場面です。そこで光平は「なりたい。」ではなく「泳げるようになった!!」と書いたのです。その時の光平の気持ちを考えてみました。光平は書いた通りになるように自分をあげましたんじゃないかと思いました。そして光平はお兄ちゃんに協力してもらいながらたくさん泳ぎの練習をがんばりました。そして五十メートルも泳げるようになりました。ぼくは、有言実行した光平をすごいと思いました。ぼくも水泳がとても苦手でした。苦手というよりきょうふで、三年生になっても顔を水につけることすら出来ませんでした。でも

「このままではまずい!!」と思いスイミングスクールに通い始めました。その時に目標を立てました。それは「一年間でクロール二十五メートルを泳げるようになる」です。光平と同じように「なりたい」という願いではなく「なる!!」という目標にしたのです。そのため毎週スクールに通い、先生からのアドバイスをよく聞いてがんばりました。その結果、十ヶ月で目標を達成し、今ではバタフライを練習するまでになりました。

ぼくはこの本を読んで、次々に願いをかなえるために必死に努力をする光平をとてますごいと思ったし、がんばりやさんだと思いま

した。そして、願いは望むだけではかなわない。周りの人に協力してもらったり自分自身のかねえる努力や、こうなりたいという強い気持ちがとても大切だということが分かりました。

ぼくも、英語の先生になりたいという将来のゆめに向かって「なりたい」ではなく「なる!!」という気持ちで努力し続けたいです。